

護性証第0006号

## 護岸ブロックの水利特性値証明書

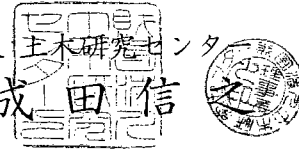
技研興業株式会社 殿

ブロック名称「せせらぎかん30H」

貴社より依頼を受けた護岸ブロック「せせらぎかん30H」は、下記の通りの水利特性値を有することを証明します。

平成15年7月10日

財団法人 土木研究センター  
理事長 成田信



記

### 1. ブロック諸元

諸元項目	原型値
ブロック重量 (kgf)	361.000
ブロック寸法 (m)	1.036×0.990×0.300
揚力作用面積 $A_b$ (m <sup>2</sup> )	0.853
抗力作用面積 $A_d$ (m <sup>2</sup> )	0.297
横揚力作用面積 $A_{bx}$ (m <sup>2</sup> )	0.853

### 2. ブロックの水利特性値

単体・群体ブロックの抗力・揚力・横揚力係数

測定項目	単体ブロック特性値	群体ブロック特性値
揚力係数 $C_L$	0.090	0.020
抗力係数 $C_D$	0.680	0.098
横揚力係数 $C_{Ls}$	0.006 (左方向)	0.010 (左方向)

群体上流端ブロックの抗力・揚力・回転半径

測定項目	特性値
揚力係数 $C_L$	0.201
抗力係数 $C_D$	1.100
揚力に対する回転半径 $L_L$ (m)	0.160
抗力に対する回転半径 $L_D$ (m)	0.303

群体ブロックの相当粗度

測定項目	特性値
相当粗度 $k_s$ (m)	0.396

以上

## 水理特性値の使用にあたって

本水理特性値は、護岸ブロックの水理特性試験法マニュアルに基づいて計測された値であり、護岸を設計するにあたって、「護岸の力学設計法」（平成 11 年 2 月 財団法人国土開発技術研究センター編）に示されている設計法に基づいた安定性照査のために用いられるものである。

この値を設計に用いるにあたっては、以下の点に留意されたい。

測定された水理特性値は、実験水路内の固定床上に理想的に設置された状態で得られたものである。

一方、実際の護岸では、水理特性値が得られた状況とは異なり、洗掘や地盤強度の違い・施工誤差などから不陸などが生じる可能性がある。万一、不陸等が生じると抗力・揚力が増加し、不陸等が発生した地点より破壊が生じる危険性がある。

したがって、護岸の設計にあたっては、測定された水理特性値に「護岸の力学設計法」を適用して求められる移動限界流速を補正する必要がある。

実際の河川における群体ブロックの移動限界流速は、理想的に配置された群体ブロックの移動限界流速と単体ブロックの移動限界流速との間にあると考えられる。

当面、設計に用いる移動限界流速を次式で与えるものとする。

$$\text{群体ブロックの補正移動限界流速(m/s)} = \text{低減率} \times V_{gc}$$

$$\text{低減率} = \frac{V_{sc} + 2V_{gc}}{3V_{gc}}$$

ここに  $V_{sc}$  : 単体時移動限界流速(m/s)

$V_{gc}$  : 群体時移動限界流速(m/s)

突起が小さく群体設置時に平滑状態となるブロックについては、群体時の抗力・揚力が小さく移動限界流速は大きな値となるが、ブロック間に生じる不陸などにより抗力・揚力が増加し移動限界流速が低減する。

また突起の大きなブロックでは、抗力・揚力は大きく移動限界流速は小さい値となるが、ブロック間に不陸が生じた場合、抗力・揚力の増加は少なく移動限界流速の低減が少ない。低減率の設定にあたって、このようなブロックの特性を考慮して、単体と群体の係数に 1 : 2 の重みを付けて評価することとした。

最後に、異なるブロック間でブロックの特性を評価する場合には、本試験で得られた抗力係数、揚力係数及び横揚力係数の大小が、抗力、揚力及び横揚力の大小に直接反映されるものではないことに留意されたい。

メーカー名	技研興業株式会社
製品名	せせらぎかん30H

## ブロック諸元

ブロック重量 (kg)	361.000
ブロック寸法 (m)	1.036 × 0.990 × 0.300
ブロック平均高 (m)	0.160
揚力作用面積 (m <sup>2</sup> )	0.853
抗力作用面積 (m <sup>2</sup> )	0.297
横揚力作用面積 (m <sup>2</sup> )	0.853

## 水理実験諸元

	単体ブロック	群体ブロック	上流端ブロック試験
水路幅 / 水路水深	3.102	3.180	2.689 ※
水路水深 / ブロック高(突起高)	7.347	15.557	8.474
最大流量時のレイノルズ数 (Re)	4.55E+04	1.53E+04	3.82E+04
最大流量時のフルード数 (Fr)	0.589	0.722	0.467
模型縮尺	S=1/6.9		

## 単体ブロック試験結果

	模型値			原型値
	通水流量		平均値	
	0.25m <sup>3</sup> /s	0.30m <sup>3</sup> /s		
揚力係数 C <sub>L</sub>	0.094	0.085	0.090	0.090
抗力係数 C <sub>D</sub>	0.683	0.678	0.680	0.680
横揚力係数 C <sub>LS</sub>	0.007	0.005	0.006	0.006 (左方向)

## 群体ブロック試験結果

	模型値			原型値
	通水流量		平均値	
	0.25m <sup>3</sup> /s	0.30m <sup>3</sup> /s		
揚力係数 C <sub>L</sub>	0.020	0.020	0.020	0.020
抗力係数 C <sub>D</sub>	0.101	0.096	0.098	0.098
横揚力係数 C <sub>LS</sub>	0.011	0.009	0.010	0.010 (左方向)

## 上流端ブロック試験結果

	模型値			原型値
	通水流量		平均値	
	0.25m <sup>3</sup> /s	0.30m <sup>3</sup> /s		
揚力係数 C <sub>L</sub>	0.190	0.212	0.201	0.201
抗力係数 C <sub>D</sub>	1.114	1.086	1.100	1.100
揚力に対する回転半径 (m)	0.021	0.025	0.023	0.160
抗力に対する回転半径 (m)	0.042	0.045	0.044	0.303

## 相当粗度試験結果

	模型値			原型値
	通水流量		平均値	
	0.25m <sup>3</sup> /s	0.30m <sup>3</sup> /s		
相当粗度 (m)	0.066	0.049	0.057	0.396

## 備考

※は、水路幅/水路水深が「護岸ブロックの水理特性試験マニュアル」に示されている数値3未満である。